

平成 19 年度生 入学試験過去問題

[特別推薦入試]

国語

学校法人 神戸創志学園

関西健康科学専門学校

平成一九年度生 第一回入学選考試験 国語 「特別推薦入試」

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

この男は何を目あてに生きているのかと李陵は怪しんだ。いまだに漢に帰れる日を待ち望んでいるのだろうか。

蘇武の口裏から察すれば、いまさらそんな期待は少しも持っていないようである。それでは何のためにこうした①鬱
 懣たる日々を耐え忍んでいるのか？ 単于に降服を申し出れば重く用いられることは請け合のだが、それをする蘇武
 でないことは初めからわかりきっている。李陵の怪しむのは、なぜ早く自ら生命を絶たないのかという意味であった。
 李陵自身が希望のない生活を自らの手で断ち切り得ないのは、いつの間にかこの地に根を下ろしてしまった数々の恩
 愛や義理のためであり、またいまさら死んでも格別漢のために義を立てることにもならないからである。蘇武の場合
 は違う。彼にはこの地での②係累もない。漢朝に対する忠信という点から考えるなら、いつまでも節旄せつぼうを持して荒野
 に③ウえるのと、直ちに節旄を焼いて後自ら首刎ねるのとの間に、別に差異はなさそうに思われる。④はじめ捕らえ
 られたとき、いきなり自分の胸を刺した蘇武に、今となつて急に死を恐れる心がきざしたとは考えられない。李陵は、
 若いころの蘇武の片意地を一滑稽なくらい強情なやせ我慢を思い出した。単于は榮華を餌に極度の⑤コンキョウの
 中から蘇武を⑥ツらうと試みる。餌につられるのはもとより、苦難に堪え得ずして自ら殺すこともまた、単于に（あ
 るいは⑦それによつて象徴される運命に）負けることになる。蘇武はそう考えているのではなからうか。運命と意地
 の張り合いをしているような蘇武の姿が、しかし、⑧李陵には滑稽や笑止には見えなかった。想像を絶した困苦・欠
 乏・酷寒・孤独を、（しかもこれから死に至るまでの長い間を）平然として⑨笑殺していかせるものが、意地だとす
 れば、この意地こそは誠に凄まじくも壮大なものと言わねばならぬ。昔の多少は大人気なくも見えた蘇武のやせ我慢
 が、かかる大我慢にまで成長しているのを見て李陵は⑩ギョウタンした。しかもこの男は自分の行いが漢にまで知ら
 れることを予期していない。自分が再び漢に迎えられることはもとより、自分がかかる無人の地で困苦と戦いつつあ
 ることを漢はおろか匈奴の単于にさえ伝えてくれる人間の出でくることをも期待していなかった。だれにもみとられ
 ずに独り死んでいくに違いないその最後の日に、自ら⑪カエリみて最後まで運命を笑殺し得たことに満足して死んで
 いこうというのだ。だれ一人己が事跡を知ってくれなくとも差し支えないというのである。李陵は、かつて先代単于
 の首をねらいながら、その目的を果たすとも、自分がそれをもつて匈奴の地を脱出し得なければ、せつかくの行為が
 空しく、漢にまで聞こえないであろうことを恐れて、ついに決行の機を見いだし得なかった。人に知られざることを

憂えぬ蘇武を前にして、⑤彼はひそかに冷や汗の出る思いであった。

※節旄：国王がその使者に与えるしるしの旗。

(中島敦『李陵』より)

問一 傍線部①のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

問二 波線部④、⑥の言葉の意味として適当なものを選びなさい。

④ 係累

ア 友人 イ 家族 ウ 親戚 エ 部下

⑥ 笑殺する

ア 苦笑する イ 含み笑いをする ウ 笑って済ます エ 笑って問題にしない

問三 傍線部②の理由として適当なものを、次から選びなさい。

- ア 捕虜として生きながらえて孤独な生活を送るのを恐れたため。
- イ 匈奴の捕虜となり、漢に戻る可能性がなくなったため。
- ウ 死を恐れる臆病な心を隠し、勇士として名を残そうとしたため。
- エ 匈奴に捕まった恥辱をそいで漢に対する忠信の証を示すため。

問四 傍線部③はどのような「運命」か。適当なものを次から選びなさい。

- ア 極度の苦難を強いる運命
- イ 栄華をほしいままにする運命
- ウ 安逸をむさぼる気楽な運命
- エ 人を誘惑して墮落させる運命

問五 傍線部④の理由として適当なものを、次から選びなさい。

- ア 漢朝に対する忠信の証として敵の単于の首をねらった自分に比べて、敵の世話を受けること自体を拒んだ蘇武のやり方をうらやんだから。
- イ 漢朝に対する忠信の証を立てることができなくても、敵に降伏することを拒んで苦難に満ちた生活を甘受した蘇武の意地に感服したから。
- ウ 漢朝に対する忠信の証を立てるために、極度の苦難にさらされながらも敵の単于の首をねらい続けた蘇武の忍耐強い執念に感心したから。
- エ 漢朝に対する忠信の証として自殺よりもつらい捕虜生活に耐えようとした蘇武の生き方に疑問を感じ、その真意を理解できなかったから。

問六 傍線部①は、どのような生活を言ったものか。文中から該当する内容を二十字以内で抜き出しなさい。

問七 傍線部⑤について、李陵は自分自身をどのような人間だと思ったのか。四十字以内で説明しなさい。

二 次の傍線部の漢字の読み方を答えなさい。

- ① 出入り口を塞ぐ ② 外国の言文一致に倣った運動が始まった
- ③ 伝説に育まれた民族にとって ④ 瀾んだゆつくりとした流れ
- ⑤ 深く水を潤え ⑥ 耽えて困難に突入している
- ⑦ 頬かぶりで通り過ぎる ⑧ 吹く風も俄に冷たくなってきた
- ⑨ 糾らわしもきかない ⑩ 思い巡らしてみると

平成一九年度生 入学選考試験 国語 「特別推薦入試」

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

父は鷗外の史伝から興味をつなげて、江戸の大名や旗本の②スシヨウや系譜、知行高などが記された武鑑というのを神田で漁っては買い集めるようになった。一九六七年に夫が死んですぐあと、母が病気で危篤になり私がイタリアを離れて帰国していた時期に、父は毎晩、母のいない二階の座敷で、暗いスタンドをつけて遅くまでそれらの武鑑に読みふけていた。

江戸時代の文化にかかわっていた人たちの知的生活がどういうものであったか、その背後にはどういう形の交友があったか、というようなことを、それにふさわしい文体で練り上げた作品が鷗外の史伝だ、というふうに石川淳はたしか書いていて、それが私の読んだ史伝論で最も納得のいくものだったが、それでもまだ、何かもつとありそうだという気がしきりにした。そのあたりのことに少し **A** のは、じかに史伝を読んでのことではなく、ごく最近、『阿部一族』を読んでいてだった。明治天皇の死に殉じた乃木大将の最期に④カンメイを受けて書いたという『興津弥五右衛門の遺書』に始まる、いわゆる歴史小説群を境に、鷗外が題材を西洋の思想あるいは事物に求めることをしなくなり、日本の過去に置くようになったのは、彼が日本の現状に⑥アイソウをつかしたからだという論旨をよく目にするが、読んでいて、『阿部一族』の底流にある、西洋具さのようなものに私はふと気づいたのである。『阿部一族』は殉死一切腹という武士たちの慣習が、西洋人を含む部外者が考えるように、ただ野蛮な風習なのではなくて、確固とした哲学や美学に支えられていたという一面を明らかにしている。しかし、最後にこの一族が奇酷な滅亡に追い詰められていく過程を、共同体の論理に従わざるを得なかった社会への批判と読むことは可能だけれど、それと同時に、ギリシア悲劇的な⑧運命の桎梏としても読めるのではないかという考えが浮かんだとき、鷗外の晩年の作品への解説の扉が少し開けたように思えた。人間の不条理ということが、ここで一つの中心的な命題として克明にたどられていることは確実で、そのとらえ方は日本／東洋的というよりはより西洋的と思える。西洋的といえ、たとえば主君の犬を預かっていた下男がその犬までを殉死させる場面などでは、⑨文体の格を一段下げて大衆文学ふうにしらえている点などからも、⑩博覧強記の見本のような鷗外がギリシア以来の文章の格の高低を当てはめているように、私には読める。 **B**、鷗外は西洋の技法を骨格に据えて、⑪日本的な題材を扱い、それを、たとえば諸処に置かれた季節の⑫スイイへの言及のように日本古来の⑬レトリックで飾りながら、重く漢文に⑭イソシした文体を練り上げるという、比類ない統合を意識した作業がここには見られる『澄江拙斎』について、私がまとめた意見の一つも言えないうちに父は死んでしまったが、私は、近ごろになって、やっと⑮史伝への私なりの入り口が見つかつたような気になっている。

問一 傍線部①④のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 波線部⑤、⑥の言葉の意味として適当なものを選びなさい。

④博覧強記

ア 論理的な思考をすること。

イ 専門的な知識があること。

ウ 読書家で物知りなこと。

エ 熟練した技能の持ち主。

⑥レトリック

ア 漸層法

イ 修辞法

ウ 擬人法

エ 比喩法。

問三 空欄Aに入る適当なものを、次から選びなさい。

ア 心が開いた イ 目が醒めた ウ 幕が下りた エ 光が射した オ 水が入った

問四 空欄Bに入る最も適当なものを、次から選びなさい。

ア ともすれば イ やはりまた ウ だからこそ

エ 何気なく オ 要するに

問五 傍線部①の意味として適当なものを、次から選びなさい。

ア 運命が人間に仕掛ける挑発。

イ 運命が翻弄する人生。

ウ 運命が人間に課す束縛。

エ 運命が強いる共同体への従属。

オ 運命がこうむる画一性。

問六 傍線部②の意味として適当なものを、次から選びなさい。

ア 文章で表現されることによつて浮かび上がる人格の違い。

イ 高尚な表現か通俗的表現かという様式の違い。

ウ 描写される人物に対応した言葉遣いの品格の違い。

エ 西欧的表現か日本的表現かという文化の違い。

オ 古典的表現か近代風表現かという時代の違い。

問七 傍線部③を具体的に述べている部分を、文中から十五字で抜き出しなさい。

問八 傍線部④と同じ意味の部分を文中から三十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字で答えなさい。句読点を含む。

問九 筆者の主張と考えられるものを、次から選びなさい。

ア 鷗外は日本的な題材を西洋の技法や日本古来の修辞法、漢文体などで練り上げて史伝を完成させようとした。

イ 鷗外は文明開化による西欧重視の文化の流れを批判して、史伝を書くことを志した。

ウ 鷗外の史伝は江戸時代の大名や旗本の生活を描いた武鑑をもとに、史実に正確に基づいて書かれている。

エ 鷗外は日本的、東洋的な思想や表現方法から抜け出して、西洋の大衆的な文体や題材を好んだ。

オ 鷗外の作品は、歴史小説から史伝まですべて、西洋の思想に対する深い理解と敬愛から成り立っている。

一 次の傍線部の漢字の読み方を答えなさい。

① そうした羽しがみえ始めている

② 筆を弄ぶ必要はない

③ 培われてきた

④ 刺き火

⑤ 頷き返した

⑥ 嚙り

⑦ 貧困に瀕する

⑧ 枠組みの中で生活することを強いる

⑨ 覆る

⑩ 自在に醸したす

平成一九年度生 入学選考試験 国語 「特別推薦入試」

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「科学技術の発展」というように、科学と技術とは一体になって使われることが多いが、科学と技術とは少し違があるように思われる。そして、日本の科学技術の進歩はすばらしいというような表現に対して、たしかに技術の進歩はすばらしいが、科学の進歩は、かなりの程度ではあつても、技術の進歩のように、世界の超一級とまではいかなのではないだろうかと感じている。科学と技術とをそれぞれ明確に①「テイギ」をしないうで、こういう比較をするのはあまりよくないかもしれないが、別の表現をすれば、日本の学問は大理論、大発見をあまり生んでいないというような批評は、一般的に認められているものと思つる。

日本の学問の歴史が浅いというのは説明にならない。技術も同じ歴史を経過している。大理論、大発見を生まない思想的風土が日本にあるためだと私は考える。②「それが森林的思考の世界で、③「対峙する」のが砂漠的思考の世界である。

科学とは、いずれにしても、④「フクザツ」な現象に関する知識を、人間の論理に従つて整頓することである。⑤「森林の人間の視点」は、Aの一点にあつた。そういう森林の人間が科学をすれば、視界の及ぶ限りの事物を⑥「タンネン」に調べ、その知識をきちんと整頓する。科学を進めるといふことは、ますます細かい差違を見つけて、それを整頓していくということになる。視界の及ばないことに関しては、確実なことが言えないという理由によつて、研究の対象から除外する。

それと反対に、⑦「砂漠の人間」にとっては、生活空間が広大であり、今見えている⑧「ハンイ」の事物に関する知識を深めることよりは、見えていない諸地方の知識を多く持つことのほうにより多くの関心が集まる。その際、目に見えていないから、確実なことは言えないと、対象から切つて捨てることはできない。たとえ見えなくとも、必ずある判断を持たなければならない。ある⑨「イズミ」に、今、水があるかないか。あるかもしれないし、ないかもしれない、よくわからない、というのでは生活が成り立たない。あると考へて行動するか、ないと決断して反対の道をとるか、いずれかの方法しかない。

現実にはAの一点にいる砂漠の人間であつても、頭の中では、Bの一角に視点があり、鳥の目で自分自身を含めて、上から鳥瞰している。Cの科学者が、ミクロのDにたけるのに対して、Eの科学者が、⑩「マクロ」なFに秀でるのは当然のことと言えよう。

科学は分析と総合から成り立つことはよく言われることであるが、D家というのは評価されても、F家というのは、事実上日本では、⑪「市民権」を与えられていない。

(鈴木秀夫『日本人と発見』より)

問一 傍線①～⑪のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① テイギ ② フクザツ ③ タンネン ④ ハンイ ⑤ イズミ

問二 傍線部④・⑤の言葉の意味で正しいものを選びなさい。

④ 対峙

- ア ニつそろつていること。
ウ 否定すること。

- イ よく似ていること。
エ 向かい合っていること。

⑤ マクロ

- ア 微視的 イ 可視的 ウ 巨視的 エ 不可視的

問三 空欄 A・B に入る語句の組み合わせとして適当なものを、次から選びなさい。

- ア A 机上 B 足下 イ A 自然 B 神々
ウ A 地上 B 天上 エ A 現実 B 空想
オ A 樹上 B 土中

問四 空欄 C・F に入る語句を、それぞれ文中から漢字二字で抜き出さなさい。

問五 傍線部①がさしている内容を、文中から二十字以内で抜き出さなさい。

問六 傍線部②・③の特徴として適当なものを、次からそれぞれ選びなさい。

- ア 見えている事物について明確に分析しながら科学を進める。
イ 森羅万象について概略を把握してから個々の観察を行う。
ウ 見えないことは理論を駆使して真理を追求する。
エ 論理的な思考は苦手であるが、実際の観察は得意である。
オ 見えていない事物に対しても判断が要求される。

問七 傍線部④の意味として適当なものを、次から選びなさい。

- ア 名前が知られていない。
イ 権利が奪われている。
ウ 価値が認められていない。
エ 真偽が明らかでない。
オ 責任が果たされていない。

問八 本文の内容に合致しないものを、次から選びなさい。

- ア 日本で大発見をする科学者を数多く輩出できないのは、狭いハンイの探究に終始するからである。
イ 日本の科学者には大所高所からものを見ようとする姿勢が欠けているため、大発見が生まれることが少ない。
ウ 日本の技術の進歩はすばらしいが、科学の進歩を育む思想的風土に欠けている。
エ 科学の進歩には、細部にこだわらず、全体を統合するような、時には大胆な発想が必要である。
オ 科学がマクロ的な思考を要求するのに対して、技術はミクロ的な思考で十分に足りる。

二 次の傍線の漢字の読みを答えなさい。

- ① 内容を窺める ② 二十一世紀を担う若者
③ 経済力を蓄える ④ 赤と黄と緑で彩られている
⑤ 羨ましい人 ⑥ 詩を「舞踊」に譬えた
⑦ 本質の再認識を企てさせる ⑧ 穿たれて死んだ
⑨ 不揃いの民家 ⑩ いまわの際

平成一九年度生 入学選考試験 国語 「特別推薦入試」

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちはだれもが、自由な精神を持ちたいと思っている。そのとき思い^㉑つかへる自由な精神とは、何ものにも自分の精神が支配されていないことを、意味している。しかし、^㉒そんなことは可能なのだろうか。

現実の中で生きている以上、現実にとらわれた精神を持ち続けている、それが私たちの姿である。とすると、自由な精神を得ようとして挑み続けるところに、人間の精神の自由さはあるのであつて、何ものからも自由になつた精神自体があるわけではないのであろう。

その理由の一つに、次のようなこともある。人間は、言葉を^㉓媒介にして物事を考へている。無意識の世界では、言葉を介さずに何かを感じたり、何となく安心したり、いらだつたり、^㉔リョウカイしたりしているのに、意識化された世界では、^㉕人間の精神は言葉を用いて思考する。もつとはつきり述べれば、言葉が生まれたことによつて、人間は意識的な思考をするようになったと言つてもよい。

A 私たちは、自然保護という言葉が生まれたことによつて、自然保護について考へるようになったのではなかつたか。もちろんそのような言葉がなくても、自然が好きの人や、自然を大事なものと思ふ人たちはいたろう。しかし、^Iは、自然保護という言葉がなければ、多くの人のものに、なることはなかつた。

B 美しいという言葉がなければ、私たちはそれを見て何らかの^㉖カンドウを覚えても、それを美しいといふ^㉗ガイネンで考へることはなかつたであらうし、明治時代になつて自然や愛という言葉が入ってくるまでは、日本には、自然や愛という言葉を用いた^㉘思考回路は存在していなかつたのである。

C 言葉を用いて思考する以上、どうしても私たちの精神は、その言葉を用いて、物事を認識するようになる。自然という言葉が日本に入ることによつて、生物たちの世界を自然としてとらえ始めたように、人間の言葉は、言葉の持つ意味に支配されながらしか動かないのである。

その言葉には、その時代がもたらした特有の意味がこめられている。たとえば近代国家が生まれなければ、今日私たちが使つていふような意味での「国家」とか「国」という言葉は^㉙タンジヨウしなかつたはずなのに、現在の私たちは、近代国家成立以降の「国家」とか「国」という言葉にとらわれた、思考回路を持つていふのである。とすると、言葉を用いて思考することによつて、私たちの精神は、その言葉をつくり出した時代の考へ方に支配されるのかもしれない。そして自由な精神を持つとうすれば、そのことに挑み続けなければならないのかもしれないのである。

(内山 節『言葉と意味』より)

問一 傍線部①～④のカタカナを漢字に直しなさい。

ア ウかへる イ リョウカイ ウ カンドウ エ ガイネン オ タンジヨウ

問二 波線部⑤・⑥の言葉の意味で適当なものを選びなさい。

⑤ 媒介

- ア 争う人を仲直りさせること。
- イ やや弾引に結びつけること。
- ウ お金を取つて会わせること。
- エ 二つの間を取り持つこと。

⑥ 思考回路

- ア 考えが変化していくこと。
- イ 思想が組み立てられること。
- ウ 物事を考えるときの過程。
- エ 思考の適正さに対する検討。

問三 空欄 A へ C に入る適当な言葉を、次からそれぞれ選びなさい。

- ア たとえは
- イ さて
- ウ 同じように
- エ だから
- オ ところが

問四 傍線部①とあるが、これについて筆者はどのように答えているか。次から最も適当なものを選びなさい。

- ア 明治時代になって外国から新しい思想を得て以来、精神の自由も手に入るようになった。
- イ 近代国家成立以前の思考回路をいまだに持っている人がいるため、すべての人が自由な精神を得られずにいる。
- ウ 現実の中で自由な精神を獲得しようと挑戦することが重要で、もともと自由な精神があるわけではない。
- エ 精神の自由は無意識のうちに備わっているものであり、だからこそ安心して生きていられるのである。
- オ 何物にも支配されない自由な精神というものを身につけたければ、現実を超えた意識を持つことだ。

問五 傍線部②とあるが、どういうことを根拠づけるためにこのようなことを述べたのか。次の空欄を埋める形で文中から二十五字以内の箇所を抜き出し、初めと終わりの五字で答えなさい。

問六 空欄 I に入る最も適当な言葉を、次から選びなさい。

- ア 自然を保護の対象として考える思考方法
- イ 自然が持つ神秘に対して抱く畏敬の思い
- ウ 日本人が持っている古来からの自然崇拜
- エ 開発か環境かという現代がかかえる命題
- オ 現代人が自然の恵みから受けている恩恵

問七 問五で抜き出した箇所の理由を、四十五字以内で説明しなさい。

問八 筆者の考えに合わないものを、次から選びなさい。

- ア 言葉は人間の生き方や考え方を支配し、その行動を規制している。
- イ 人間は言葉を用いることにより意識的に考え、生きていくものだ。
- ウ 人間は物事を言葉で認識するために制約が大きく、一面的になりやすい。
- エ 言葉には時代や社会によって特有の意味が与えられるものである。
- オ 人間は言葉の意味の支配に挑むことで自由の精神を得ることができる。

二 次の傍線の漢字の読みを答えなさい。

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| ① 特別な機械の開発に 颯 る | ② 話を 交 わす |
| ③ いくら 纏 めて金をつくる | ④ すっかり 悋 えて |
| ⑤ 裏表紙に 刷 りこまれている | ⑥ 遂に成功して |
| ⑦ その作業の 歴 史性を 舐 れた | ⑧ 無 教 に 溢 れる |
| ⑨ 眼を 瞞 る思い | ⑩ 一切を 剥 ぎとる |

平成一九年度生 入学選考試験 国語 〔特別推薦入試〕

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

古今集仮名序に、歌を論じて言う。

「世の中に在る人、ことわざしげきものなれば、心に思ふ事を、見るもの聞くものにつけて言ひ出せるなり。」

人がある事態（ことわざ）を経験するとき、「心に思ふ事」を言語化したものが歌であるという。①この「心に思ふ事」は、二通り考えられるであろう。

一つは、経験対象としての事態、すなわち「ことわざ」について心に考える事柄がある。見える事態を認識し、見えぬ部分を推理し、関連する知識を②ソウキし、③ソノエキを判断する。これらは概念操作によつて行われ、人はその「ことわり」を言語記号によつて④ヨウイに他者と共有できる。

しかし、経験されるのは、そのような対象としての「ことわざ」だけではない。同時に、その「ことわざ」が私の心に及ぼした影響をも経験しているのである。それは一種の驚きかもしれないし、不安かもしれないし、⑤サウイかもしれないが、私はそれを〈私の様態〉として直接に知覚するのであつて、概念に置き換えることはない。

A 「ことわざ」の経験には、認識対象としての「ことわざ」と、その「ことわざ」に対する私のかかわり方との、二つの側面がある。前者は「ことわり」によつて再構成されるが、後者は直接知覚される私的な〈気分〉ないし〈感じ〉であつて、「心に思ふ」ときにも概念≠言語を介さない。

したがつて、この〈感じ〉を他者に伝えようとするとき、これを対象化し、概念に置き換えるという方法は、多くの場合有効ではない。たとえば、真昼に散る桜を前にしたとき、その形状や状態についてなら、「ことわり」は⑥シヨウサイにこれを記述できる。B そのときの私の、うららかなも物悲しいとも言いようのない〈感じ〉について、通常の概念操作によつてはとらえることができない。

たとえばこれを分析して「うららかな七分、もの悲し三分」などと言うのはほとんど意味がない。⑦〈感じ〉は、要素の集合ではないから、要素概念の組み合わせに⑧分節できるものではなく、全体としてそのようなものととらえるほかないからである。多くの場合、このような〈感じ〉を過不足なく表す概念組織はない。また仮にあつたとしても、その概念の伝達と、〈感じ〉の伝達とは別のことである。

「不安」という語によつて、不安の概念は伝えられるが、それで不安の〈感じ〉が伝わるわけではない。つまり〈感じ〉とは、もともと「いふにいはれぬ」ものである。

人は、この言うに言われぬ〈感じ〉を伝えるために、「あや」を用いて歌を作る。「ことわざ」としての桜 C を言わんがために歌を⑨ヨむ人はいない。このとき、歌という形式で表さんとする〈感じ〉が、歌の「こころ」なのである。

（尾ヶ崎彬『こころことわり』より）

問1 傍線部⑦～⑨のカタカナを漢字に直しなさい。

- ア ソウキ イ ソノエキ ウ ヨウイ エ シヨウサイ オ ヨム

問二 傍線部④・⑤の言葉の意味で適切なものを選びなさい。

㉔ 恍惚

- ア うつとりとするさま。
- イ ぼろげんとするさま。
- ウ ときどきするさま。
- エ しみじみするさま。

㉕ 分節

- ア 文を最小限に区切ること。
- イ けじめをつけること。
- ウ 順番を決めること。
- エ いくつかに区切ること。

問三 空欄A・Bに入る適切な語を、次からそれぞれ選びなさい。

- ア しかも イ しかし ウ たとえば エ そのため オ つまり

問四 空欄Cに入る語句を、文中から五字で抜き出さなさい。

問五 傍線部①は何と何か。文中から連続した二十五字の部分抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問六 傍線部②の説明として、正しくないものを、次から選びなさい。

- ア たとえばその〈感じ〉を甘さが六割、辛さが四割というふうに分節するのは正しくないということ。
- イ 紅葉の美しさを「明るく」「華麗で」「目に鮮やか」だと言つても、美しいと感じた「ところ」は伝えられないということ。
- ウ 手に触れた水を冷たく、勢いよく流れてゆく、透明な液体と分節しても、水自体を表現したことにはならないということ。
- エ 「不安で落ち着かない」という場合、その概念は伝えられるが、〈感じ〉は伝えられないということ。
- オ 桜を表現する場合、その美しさをさまざまな角度から描写することはできても、その美しさの感じは概念化できないということ。

問七 次の文は、文中の用語の意味を文脈に沿つて整理したものである。空欄Ⅰ～Ⅳに入る語を、後からそれぞれ選びなさい。

Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ

Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ

Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ

Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ

- ア ところ イ ことわり ウ もののあはれ エ あや オ ことわざ

問八 本文の内容に合致しないものを、次から選びなさい。

- ア 「心に思ふこと」には言語化できない部分もある。
- イ 人がある事態を経験するときには、心に及ぼす影響も体験している。
- ウ 人が心に思つたことは、間接的ではあるが、必ず概念に置換できる。
- エ 歌では、言うに言われぬ〈感じ〉を表すのに「あや」を用いる。
- オ 歌の「ところ」とは私的な〈感じ〉が伝えられたときに成立しているものである。

二 次の傍線の漢字の読みを答えなさい。

- ① 苦しい耐乏生活だつた ② 前書きと相俟つて
- ③ 総ての彼の中 ④ 見え透いている
- ⑤ 日本語を粗末に扱う ⑥ 仮病で休む
- ⑦ 試行錯誤を繰り返す ⑧ 面目を保つ
- ⑨ 間に揆まっている ⑩ 削り出す

平成一九年度生 入学選考試験 国語 [特別推薦入試]

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

空洞は、神秘に向かう心性を吸い寄せ、飲みこんでしまう自然的形態である。葦の茎、^㉑骨髄、目殻朽ち木は、それ自体が空洞をそなえているために、これらの空洞物を^㉒介して鳴らされる音の神秘は^㉓二重の性質を帯びる。

葦の生える^㉔ブドウには、葦にかかわる神話が生み出され、葦笛の音を神話的思考で解き明かそうとする^㉕ココロ^㉖が繰り返される。インドヨーロッパ系の神話に、いくたびも葦が変貌しつつあらわれるのは、^㉗シユウ升のとおりである。

我々には、葦もあつたが、それよりもはるかに優秀な^㉘ソサイとして、竹があつた。そして竹もまた、めざましい空洞性によつて、我々の神話的思考をうながし、^㉙音楽とかかわり、形とかかわっている。

我々の祖先にとつて、空洞は大切な魂を委託する場所であつた。また、彼らにとつて、神的なものは、いずれ^㉚本来のところへ収まるにせよ、しばしば空洞を住まいとし閉じこもる性質のものであつた。かぐや姫は、竹の^㉛フシの間に委託されていた^㉜天女である。そして竹取の翁は、農耕の神々をまつる大切な御座として用いられた、なかまほみの竹あみの農具^㉝箕をあむ代々の家職に励む翁であり、天女を育成するに適した人は、この聖なる職人以外にはなかつた。

かぐや姫のように、空洞を住まいとするものに蚕がある。蚕を「おかいこさま」と呼ぶのが日本のならわしだつたが、それは高価な絹を提供するからではなく、蛹化した蚕があめ美しい雪白あるいは淡黄色の空洞体、繭にこもるために言い出された特別の A である。

かつて我々の周りには、かぐや姫や「おかいこさま」と同様に、^㉞切り離しがたく空洞とつながっているからこそ大切に^㉟扱われた品々が多かつた。昔、女の子の遊ぶ用具にお手玉があつた。お手玉は、ぞんざいに扱つてはならないものとして、あつた。玉が空洞を持った品物を意味したのは、浦島太郎の玉手箱が伝えるとおりで、布の袋のうち^㊱雑穀を閉じ込めただけのお手玉さえ、空洞との関連を断ち切られていないかぎり、^㊲それは「ただの遊び」の具として扱つことができなかつたものである。

※蛹化：昆虫の幼虫が、さなぎに変態すること。

※雑穀：米・麦以外の穀物。

(杉本秀太郎『竹』より)

問一 波線部①～③のカタカナは漢字になおし、漢字は読みを答えなさい。

問二 傍線部④は、空洞の持つどのような性質とかかわっているか。次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 神秘に向かう心性を吸い寄せ、飲みこむ。
- イ 大切な魂を委託する。
- ウ 神的なものを閉じ込める。
- エ 神々をまつる大切な御座である。

問三 空欄 A にあてはまるものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 俗称 イ 特称 ウ 敬称 エ 古称

問四 この文章で最も強く言っていることは何か。次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 空洞という形態
イ 空洞の持つ神秘性
ウ 竹の特性
エ 神話の源流

問五 傍線部②の「音楽」・「形」を言い換えたものを、本文中からそれぞれ五字以内で抜き出さなさい。

問六 傍線部③と対義的な意味を持つ語を、本文中から抜き出さなさい。

問七 傍線部④を言い換えたものを、前半部から十字以内で抜き出さなさい。

問八 傍線部⑤のように言っているのはなぜか。その理由を説明しなさい。

問九 浦島太郎の話は室町時代に書かれたお伽草子にあるが、昭和になって新たに『お伽草紙』として創作した作家はだれか？

- ア 野間宏 イ 太宰治 ウ 安部公房 エ 田宮虎彦

二 次の傍線の漢字の読みを答えなさい。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ① 人を <u>駈</u> く | ② <u>凶</u> る |
| ③ 赤い字で <u>綴</u> られている | ④ <u>廉</u> 価商品 |
| ⑤ <u>畦</u> 道からながめた風景 | ⑥ <u>門</u> 扉の隙間から |
| ⑦ <u>至</u> 極当然のことであろう | ⑧ 悔 <u>恨</u> の情 |
| ⑨ 海に <u>臨</u> む | ⑩ 挽きたての香り高い <u>キ</u> ナコ |

平成一九年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「特別推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一												
問一	ア	素性		イ	感銘		ウ	愛想		3×5		
	エ	推移		オ	依存							
問二	a	ウ		b	イ					3×2		
問三		エ		6								
問四		オ		6								
問五		ウ		7								
問六		イ		7								
問七	殉	死		切	腹	と	い	う	武	士	8	
	た	ち	の	習	慣							
問八	鷗	外	の	晩	年	ゝ	に	思	え	た	。	8
問九	ア	7										
二												
①	きざ		②	もてあそ		③	つちか		3×10			
④	た		⑤	うなず		⑥	まど					
⑦	ひん		⑧	し		⑨	くつがえ					
⑩	かも											

平成一九年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「特別推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一		問一	ア	定義	イ	複雑	ウ	丹念	3点×5				
			エ	範囲	オ	泉							
		問二	a	工	b	ウ			4点×2				
		問三	ウ						7点				
		問四	C	森	D	分	E	砂	F	総	合	4点×4	
		問五	大	理	論	、	大	発	見	を	生	ま	10点
			な	い	思	想	的	風	土				
		問六	②	ア	③	オ							5点×2
		問七	ウ										7点
		問八	オ										7点
二		①	なが	②	にな	③	たくわ						
		④	いろど	⑤	うらや	⑥	たと						
		⑦	くわだ	⑧	うが	⑨	ふぞろ						
		⑩	きわ										2点×10

平成一九年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「特別推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問一		ア	浮		イ	了解		ウ	感動		3点×5	
		エ	概念		オ	誕生						
問二		a	工		b	ウ		3点×2				
問三		A	ア		B	ウ		C	オ		4点×3	
問四		ウ		7点								
問五		何 も の か ら 、 け で は な い										
問六		ア		6点								
問七		人 間		の 精 神		は 、		そ の 時		代 特 有 の 意 味 が こ め ら		9点
		れ た		言 葉 を		用 い て		し か		思 考 す る こ と が で き な		
問八		ウ		7点								
①		こ		②		か		③		ま		3点×10
④		おび		⑤		す		⑥		つ		
⑦		まぬが		⑧		あふ		⑨		み		
⑩		は										

平成一九年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「特別推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一		二	
問一	ア 工	想起 詳細	イ オ
問二	a	ア	b
問三	A	オ	B
問四	形	状	や
問五	認	識	対
問六	ウ	象	と
問七	I	オ	II
問八	ウ	イ	III
		ア	IV
		エ	
①	たいぼう	②	あいま
④	す	⑤	そまつ
⑦	ちくご	⑧	めんもく
⑩	けず	⑨	はそ
		③	すべ
		⑥	けびょう

平成一九年度生 入学選考試験 解答用紙 国語 「特別推薦入試」

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一		問一		ア	こつずい	イ	かい	ウ	風土	3点×10	
		エ	試	オ	周知	カ	素材				
		キ	節	ク	てんによ	ケ	あつか				
		コ	ぞつこく								
		問二	ア	イ	問三	ウ	問四	イ	3点×4		
		問五	音楽	音	の	神	秘	4点×2			
		形	自	然	的	形	態				
		問六	委託		4点						
		問七	空 洞 を そ な え て い る								7点
		問八	空洞は大切な魂を委託する場所であり、それゆえ空洞を持つお手玉は粗末に扱えないという考えから。								7点
		問九	イ	2点							
二		①	あざむ	②	はか	③	つづ	3点×10			
		④	れんか	⑤	あぜみち	⑥	もんぴ				
		⑦	しごく	⑧	かいこん	⑨	のぞ				
		⑩	ひ								